

## 熱中症による救急搬送の状況及び予防啓発の取組について

救急企画室

### 1 はじめに

消防庁では、平成20年度から全国の消防本部を対象に熱中症による救急搬送人員の調査を行っており、調査開始以降最多の救急搬送人員を記録した平成30年には全国で約9万人以上の方が熱中症により救急搬送されています。例年5月1日を含む週の月曜日から調査を開始していますが、今年度は、新型コロナウイルス感染症をめぐる現状等に鑑み、6月1日から調査を開始し、8月16日までに35,317人(※速報値)の方が熱中症で救急搬送されました。

これは、昨年度の同時期と比較して14,804人(▲29.5%)の減少となっていますが、今年度は梅雨明けの時期が遅く、梅雨明け後

に熱中症による救急搬送人員が増加傾向にあることから、今後も熱中症に対する予防が必要です。住民の皆様への熱中症に対する関心を更に高めるため、あらゆる機会を通じて積極的に予防啓発を行っていくことが重要であることから、今年度の熱中症による救急搬送状況や熱中症予防啓発の取組についてお伝えします。

### 2 熱中症による救急搬送状況

#### ① 週別の推移 (図1)

救急搬送人員は6月1日から1,000～1,500人前後で推移していましたが、7月20日の週から3,000人以上に増加し、8月10日の週では12,000人以上に増加しています。

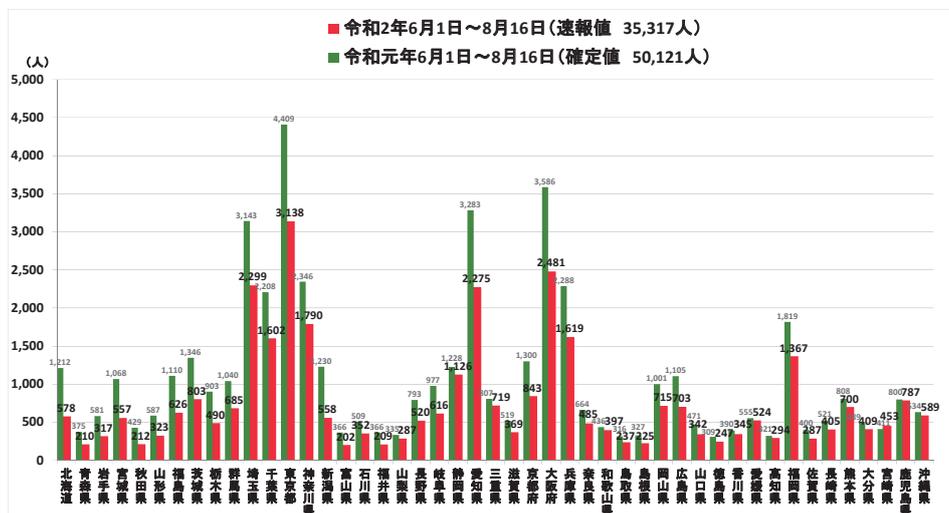
令和2の熱中症による救急搬送状況 (週別推移)



\*速報値(緑、青)の救急搬送人員は、後日修正されることもありますのでご了承ください。

図1

令和2年 都道府県別熱中症による救急搬送人員 合計搬送人員 前年との比較 (6月1日から8月16日)



\*速報値(赤)の救急搬送人員は、後日修正されることもありますのでご了承ください。

図2

## ② 都道府県別の合計 (図2)

6月1日から8月16日までの熱中症による救急搬送人員の合計35,317人のうち、東京都が3,138人と最も多く、次いで大阪府2,481人、埼玉県2,299人、愛知県2,275人、神奈川県1,790人となっています。

## ③ 年齢区分ごとの救急搬送人員 (図3)

6月1日から8月16日までの熱中症による救急搬送人員の合計35,317人のうち、高齢者が21,099人(59.7%)と最も多く、次いで成人11,211人(31.7%)、少年2,811人(8.0%)などとなっています。例年と比べ少年の割合がやや減少(例年10~14%)していますが、これは、新型コロナウイルス感染症への対応で全国的に教育機関が休校や時間短縮の措置をとっていたことが影響したものと考えられます。約6割を占める高齢者は暑さやのどの渇きを自覚しにくいなど体の変化に気づきにくい傾向があるため、周囲の方がこまめに声をかけて、水分補給や暑さ対策などの予防行動を促すことが大切です。

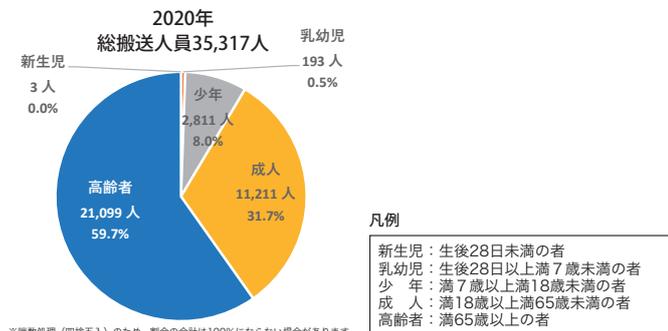


図3

## ④ 傷病程度ごとの救急搬送人員 (図4)

6月1日から8月16日までの熱中症による救急搬送人員の合計35,317人のうち、軽症20,864人(59.1%)と最も多く、次いで中等症12,928人(36.6%)、重症1,013人(2.9%)、死亡67人(0.2%)などとなっており、例年と比べ構成比に大きな変化はありませんでした。熱中症の症状は、年齢や持病など傷病者の背景の違いにも影響を受け、刻々と変化します。中には、短時間で重篤な状態に陥る場合もありますので十分に注意が必要です。

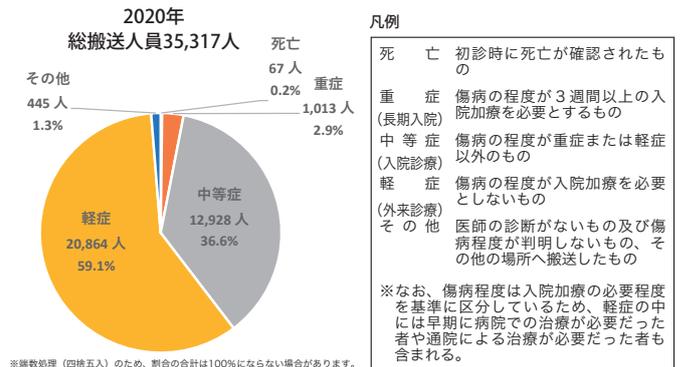


図4

## ⑤ 発生場所ごとの救急搬送人員 (図5)

6月1日から8月16日までの熱中症による救急搬送人員の合計35,317人のうち、住居が15,043人(42.6%)と最も多く、次いで道路6,628人(18.8%)、公衆出入り場所(屋外)3,671人(10.4%)、仕事場①3,390人(9.6%)、公衆出入り場所(屋内)2,237人(6.3%)などとなっており、例年と比べ構成比に大きな変化はありませんでした。

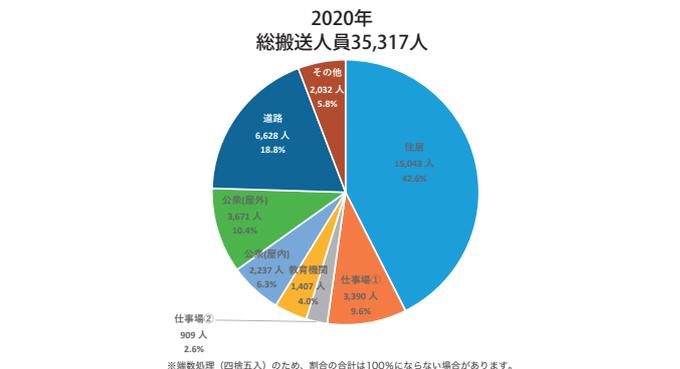


図5

## 3 「ハローキティ」と連携した熱中症予防広報の実施

消防庁では、熱中症予防啓発として従来から、熱中症による救急搬送人員の調査と公表、「リーフレット」や「ポスター」の作成、消防庁ホームページやツイッターによる情報発信などを通じ、住民の皆様幅広く注意喚起を図るとともに、全国の消防本部が行う予防啓発活動を支援してきました。

こうした中、今夏は特に、社会全体として新型コロナウイルス感染症に留意した対応が必要であり、熱中症予防対策についても、従前からの「エアコンの上手な使用」や「水分補給」といった対応に加え、換気や適宜マスクを外すなどの「新しい生活様式」と両立させた行動が求められています。

そこで、「新しい生活様式」にも対応した約1分間の熱中症予防啓発動画を、子供を中心に幅広い年齢層から親しまれている株式会社サンリオの「ハローキティ」と連携して新たに作成し、消防庁ホームページやYouTubeを活用して7月15日（水）から公開を始めました。

消防庁としては全国の消防本部に対し、この動画も活用して熱中症予防啓発の強化に取り組むよう呼びかけました。



## 消防庁熱中症情報

[https://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9\\_2.html](https://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html)

※ 熱中症予防啓発のコンテンツは、このURL内に掲載しています。

## 4 熱中症予防のポイント

熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です。また、従前からの予防に加え、「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイントとして、以下の項目に心がけましょう。

- ・屋外で人と2m以上離れている時はマスクを外しましょう。
- ・涼しい服装、日傘や帽子で暑さを避けましょう。
- ・のどが渇いていなくてもこまめに水分補給をしましょう。
- ・部屋の温度に注意し、エアコンや扇風機を上手に使いましょう。また、こまめに換気をしましょう。

【参考】令和2年度熱中症予防行動リーフレット（環境省）  
[https://www.wbgt.env.go.jp/heatillness\\_pr.php](https://www.wbgt.env.go.jp/heatillness_pr.php)

## 5 おわりに

熱中症は正しい知識を身につけることで、予防することが可能です。また、周囲の気遣いで熱中症になりやすいとされる高齢者や子供を守ることができます。

消防庁では、全国の消防本部と連携をとりながら、引き続き熱中症予防啓発に努めていきます。

熱中症予防対策リーフレット

### 問い合わせ先

消防庁救急企画室  
 TEL: 03-5253-7529